The Rotary Club Of Hamamatsu Siyou Weekly Report
浜松志耀ロータリークラブ　週報

浜松志耀ロータリークラブ　第 90 回例会

開催日時：2026 年 10 月 10 (土)　10：20 ～ 11：30
開催場所：社会福祉法人葵会　児童養護施設　清明寮体育館

■ 会長挨拶　　松井会長

皆様、おはようございます。本日は、今年度の奉仕活動の柱の一つとして取り組んでおります「盲導犬活動支援」について、ご挨拶を申し上げます。まず、盲導犬をめぐる今の状況からお話しさせてください。



日本盲人社会福祉施設協議会の集計によりますと、2026 年 3 月末現在、全国で実際に活躍している盲導犬は 745 頭です。前年の 768 頭から、この 1 年間で 23 頭減りました。実は、2009 年の 1,070 頭をピークに、減少が続いています。2025 年度に新たに育成・貸与された盲導犬は 100 頭、前年度は 117 頭でしたから、育成の数も減っています。そして、この年度に引退した犬は 123 頭。生まれる犬より、引退する犬のほうが多い。これが、今の日本の現実です。

盲導犬が一人前のパートナーとして歩き出すまでには、長い道のりがあります。繁殖犬のもとで生まれ、パピーウォーカーと呼ばれるボランティア家庭で約 1 年、家庭の温もりの中で育てられ、その後、訓練士による 1 年から 1 年半の訓練を経て、使用者との約 4 週間の共同訓練を終えて、はじめて盲導犬として認定されます。ここまでにかかる費用は、およそ 500 万円と言われています。しかも、その大部分は国や自治体の助成ではなく、私たち一人ひとりの寄付によって支えられているのです。

それでも、社会の側の理解が追いついていません。全国盲導犬施設連合会が 2025 年 3 月に公表した調査では、回答した使用者 576 人のうち 276 人、実に 48%の方が、この 1 年間に施設利用を断られた経験があると答えています。断られた場所で最も多いのは飲食店で 488 回、次いで電車・バス・タクシーなどの交通機関が 156 回、宿泊施設が 132 回。身体障害者補助犬法が施行されて 20 年以上が経ち、盲導犬の同伴受け入れが法律上の義務とされているにもかかわらず、この状況が続いています。



ここで、私たちロータリーの奉仕の理念を思い起こしたいと思います。私たちは「超我の奉仕（Service Above Self）」――自分を超えた奉仕を掲げ、「四つのテスト」の最後に「みんなのためになるかどうか」を問い続けてきました。盲導犬を必要とする方にとって、犬は決して道具ではありません。目であり、足であり、社会とつながる窓です。その窓を支えることは、職業人として地域に根を張る私たちロータリアンの使命にほかなりません。

そこで、本日の例会を機に、会員の皆様に三つのご協力をお願いいたします。

第一に、募金です。 盲導犬の育成費用のおよそ 9 割は、寄付によって支えられています。わずかな額でも、会員全員の力が集まれば、一頭の盲導犬を送り出す力になります。

第二に、啓発です。 皆様のお店に、事務所に、取引先に。ハーネスをつけた盲導犬は、今まさに「仕事中」です。声をかけず、触れず、見守る。この当たり前のことを、私たちの言葉で広げてまいりましょう。

第三に、かかわりを持つことです。 パピーウォーカー、里親、施設の見学、そして次世代への語りかけ―どれも貴重な支援です。盲導犬協会の活動に、ロータリーとして、人として、一歩踏み出していただければ幸いです。

一頭の盲導犬が、一人の人生を変えます。そして、その一頭を支えるのは、私たち一人ひとりの小さな「志」です。どうぞ、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

■ ご挨拶　　(社福) 葵会清明寮　野中利紀施設長

昨年のあたごフィールズに続いての開催ありがとうございます。

■ 幹事報告　　平野幹事 (代読 西川会員)

この後理事会です。

■ 盲導犬セミナー　　(公財) 日本盲導犬協会　奉仕プロジェクト委員会　平出委員長



平出委員長お疲れ様でした





仕事中のワンちゃんに触ってはダメです





子供たちにお菓子を配りました



全体写真





(お弁当持って) 木俣会員も駆けつけてくれました！

■ 司会進行　西川会員

※出席率：41％ (会場　13名)＝13名／31名)